

茨中・茨高の授業は中高一貫を活かした先取りカリキュラムで行われます。高3時に演習の時間を多く取れるという実利があるのはもちろんですが、ほとんどの先生が高校でも授業を担当しているため、そのお話の節々に高校や大学での学習内容が現れ、好奇心を掻き立てられます。授業内容の自由度も高く、中1時に多く行われた生物の観察では、中学受験で苦手だった生物に興味を持てた他、自然を観察する眼を知らず知らずのうちに鍛えることができました。他にも、国語科で年数冊指定される課題図書を読んで教養と読解力を身につけたり、オンライン英会話でスピーキングの経験を積んだり、茨中・茨高での学校生活にはあらゆる場面に入試の得点を超えた深い学びの扉が開かれています。

私は医学コースに中3から所属していました。私の感じた茨中・茨高の医学コースの最大の特長は、医学部に合格するための方法論を追究するよりも、医師はどんな職業であるのか、医師を目指すとはどういうことなのかといった進路選択における根源的な問いに焦点を当てつつ、同時に医療に貢献する多様な道を知る機会を与えてくれる点です。医学コースでは中3から医師をはじめ医療に関わる様々な方々のお話を聞き、国内外を問わず様々な切り口で現代の医療の実相を学ぶことができます。その中で医師、あるいは医療系職への思いが強くなれば、高3まで受講して受験に向けた指導を受けることになります。実は私は興味分野の変化によって高2進級時に医学コースを退会したのですが、それも医学コースでの学びを通して進路について深く考えることができたからこそのことでした。当時の担当の先生に退会を伝えた際には、私が志望した工学系の分野でも医療に大きく貢献できるとの前向きなメッセージで背中を押していただけました。このように、進学校でありながら受験という枠組みにとらわれず、生徒一人ひとりの個性を尊重して進路指導を行うところが茨中・茨高の大きな強みです。

私は中高6年間生物部に所属していました。入部の動機は生物分野への苦手意識を克服したいというやや後ろ向きなもので、はじめは生物への情熱を持って活動する先輩方や友人に比べ積極的に活動できなかったのですが、毎年夏休みに行われる入笠山での調査合宿に初めて参加して生物部の醍醐味の一端に触れました。当時中1の私にとって標高2,000m近い山での生活は新鮮で、美しい自然に心が洗われるような思いでした。調査班の先輩方には調査方法を手取り足取り教えていただき、次第に調査の流れを理解して自ら動けるようになり調査の面白さと自分の成長を実感できました。学年が進むにつれて蓄積した知識と経験から調査に対する理解度は深まっていき、新たな調査方法を班員と考えたり、文化祭での展示を制作したりと充実した活動を行えました。特に部誌「大樹」の編纂では、表計算ソフトを駆使してデータを整理・考察し、書き上げた原稿を部員間で校正し合い、先生の添削をいただくなど濃密な時間を過ごしました。生物室で高校生の先輩が課題と格闘する姿を見ていたからこそ、中高学年を問わず協力して活動に取り組むことができたのだと思います。

茨中・茨高の良いところは、視野を広げるチャンスが豊富であるところだと思います。私は茨中・茨高で出会った多様な強みを持つ個性的な友人たちと刺激を与え合い、計算機科学や言語学などまったく知らなかった分野に興味を持つことができました。また、中高の校舎が繋がっているため、勉強をはじめ様々な活動に打ち込む高校生の先輩方の後ろ姿から高校生活を具体的にイメージし、大学受験までの道筋について中1からぼんやりと意識することができました。経験豊富で親切な先生方や蔵書・設備ともに充実した図書館など学習環境も理想的で、その気になれば中学生のうちから高校範囲を超えた学習まで進むこともできます。大学入試に向けた手厚い進路指導はもちろんですが、自分の

殻や学年の壁の外にある学びの世界が茨中・茨高には待っています。

大学進学後はできる限り幅広い学問分野に触れ、教養と考える力を身につけた上で妥協せずに進路の可能性を探っていきたいと考えています。そしてどの分野に進むにせよ、より良い世界をつくるために自ら課題を発見し、社会に働きかけることができるようになりたいです。